「遊技産業活性化委員会」の一翼を担い風営法の下で発展

日本遊技関連事業協会（日遊協）はホール・メーカーなど409社・1団体（7月17日現在）で構成。庄司孝輝会長（ピーアークホールディングス副会長）に今とこれからを聞いた。

日本遊技機関連事業協会
会長 **庄司 孝輝**

名称：日本遊技機関連事業協会（日遊協）
住所：〒104-0033　東京都中央区新川2-12-15　ヒューリック八丁堀ビル2階
概要：2014年4月から一般社団法人に移行。ホール、遊技機メーカー、販売会社など遊技産業に関連した企業が参加する、業界唯一の横断的組織。

―今年4月に一般社団法人に移行しました。

「公益目的事業として『ボランティア活動』と『青少年育成に対する環境整備』などが定款に明記された。発足からの旗印である業界の『健全化』『近代化』『適正化』『社会的地位の向上』は引き継いで行きます。パチンコファンが減少し、業界を取り巻く環境は厳しい。日遊協の活動を一層活発化し、パチンコ産業の復活につなげていきたい」

―ファンの減少に歯止めをかける必要がありますね。

「遊技機はヘビーユーザー向け機種が中心となり、幅広いファンのニーズと懸け離れてしまった。V字回復を図るために業界が団結し対処するときが来た。日遊協は今年4月に『パチンコ&パチスロフェスタ』を秋葉原で主催し、ほぼ同時期に千葉・幕張メッセで開かれた『ニコニコ超会議』にもブースを出展したが、若者層にアピールして大きな反響があった。来年開かれる『ニコ超』には、業界が結集した形での出展を計画している。秋葉原のフェスタも来年は業界全体で行うことを考える」

―4月に業界横断組織「遊技産業活性化委員会」が設置されました。

「メーカーと共同で『遊べる遊技機』の開発と、ファン創出とイメージアップに向けたPR策を模索する。スリープユーザーや、幅広い年齢層のファンが楽しめる環境を産業全体で推進していきたいと考えている」

―「カジノ法案」が審議されています。パチンコ業界ではどうとらえていますか。

「カジノはギャンブルであり、娯楽であるパチンコとは楽しみ方が異なる。パチンコは風営適正化法にのっとったプロセスを楽しむ大衆娯楽。カジノは本来外国人観光産業を発展させる為の一つのメニューであって、町おこしのために全国各地に設けようとする案もあるが、当初の目的と異なる議論に感じている。業界には全国50万人以上が働いており、地域雇用にも貢献している。政府はこれらを踏まえてカジノとパチンコとの違いをしっかりと認識していただきたいですね」

「回る回るパチンコ」による休眠層の獲得と将来に向けた「ECO遊技機」開発を推進

日本遊技機工業組合（日工組）には遊技機メーカー35社が参加している。金沢全求理事長（三洋物産副社長）に次世代の遊技機の開発などについて聞いた。

日本遊技機工業組合
理事長 **金沢 全求**

名称：日本遊技機工業組合（日工組）
住所：〒104-0031　東京都中央区京橋1-2-5　京橋TDビル2F
概要：1960年に設立されたパチンコ遊技機など製造会社35社で構成する組合。組合員の改善発達を図るため必要な事業を行い、公正な経済活動の機会を確保することを目的とする。

―パチンコファンの減少が続いています。

「1995年ごろは約3000万人とされていたが、すでに1000万人を割り込んでいる。パチンコは大衆娯楽だったのに、いつしかお金のかかる遊びになってしまった。ファンの減少は業界の死活問題。一致団結し、少額でも楽しめることを再認識してもらえるように努力する必要がある」

―業界横断組織「遊技産業活性化委員会」の活動が期待されますね。

「日工組はファン拡大に向けて『休眠層の獲得』『将来に向けた遊技機の開発』に取り組む。休眠層獲得のカギは大当たりを決定する図柄をまわす、いわゆる『回る回るパチンコ』の開発だ。ヘビーユーザー向け機種はハイリスクハイリターン。当たれば大きいが、回らないため、『回すためにお金を使う。なかなか当たらないからストレスがたまる。結局、パチンコをしなくなる』といった悪循環となった。回る率を高めることにより、当たる確率が高くなるのでストレスがたまらず、遊技機のゲーム性なども楽しめる。ローリスクローリターンで休眠層を呼び戻したい」

―遊技機の開発テーマは。

「まずファンを取り戻すこと、それが一番の課題だ。その上で将来に向けた遊技機開発がテーマとなってくる。例えば、玉を補給せずに遊技機内でパチンコ玉を循環させる封入式の『ECO遊技機』だ。一台で完結するため、複数台を並べて島にする必要がない。ホールのレイアウトなどの設計自由度が高まる。また足元に玉箱を積まないで済むため、非常時の避難経路の確保といったホール環境の改善にもつながる。オンラインで監視し、セキュリティー対策も高度化できる」

―業界の地位を向上するためには、社会貢献活動も欠かせませんね。

「東日本大震災の被災に対し日工組は毎年1億円を寄付している。また日工組社会安全財団を通じて、犯罪のない街づくりに取り組んでいる研究機関などを支援している。パチンコは安全に暮らせる社会があってこそ成り立つ」

業界トピックス

◆パチンコ・パチスロフェスタ、東京・秋葉原で開催

日本遊技関連事業協会（東京都中央区）は4月25、26日、パチンコやパチスロの面白さを体験できるイベント「パチンコ・パチスロフェスタ2014」をベルサール秋葉原（東京都千代田区）で開いた。業界関係者1756人や一般のファンら2123人が参加。新台のパチンコなどを無料で遊べる企画や各社・団体のマスコットキャラクターの人気投票が行われ会場を沸かせた。また26、27日に幕張メッセ（千葉市美浜区）で行われた「ニコニコ超会議3」に出展。SANYOイメージキャラクター・ミスマリンの大浦育子さんが「はじめてのパチンコ講座」をテーマに講義し、パチンコやパチスロの魅力を伝えた。

◆回胴遊商20周年

パチスロ機の販売流通を手がける回胴式遊技機商業協同組合（東京都台東区）は5月27日、「20周年記念式典・祝賀会」をグランドプリンスホテル新高輪（東京都港区）で開いた。回胴遊商の伊豆正則理事長は「616社が加盟する組織に成長した。20年の努力で今がある、将来のために今がある。感謝の気持ちと初心を忘れず、進化する強力な組織を目指し挑戦する」と関係者への感謝と抱負を述べた。

◆2015年G&E大阪校開校

ゲーミング&エンタテイメントビジネススクール（東京都渋谷区、吉田永学校長、03・5428・6331）は、2015年4月に遊技産業で働く人材を育成する「G&Eビジネススクール」を関西地域で初めて大阪市に開校する。設計や映像企画などを学ぶスクールでSANKYO、サミー、フィールズが出資する。これにより渋谷校（東京都渋谷区）と名古屋校（名古屋市中川区）の3校体制となる。

◆新機種発売

SANKYOは8月20日にパチンコ台の新機種「FEVER KODA KUMI～LEGEND LIVE～」を発売した。歌手の倖田來未さんとタイアップしたシリーズ第4弾で出荷数は累計35万台。女性ファンを中心に人気がある。10月上旬に全国のパチンコホールに導入予定。

©avex management inc.　©avex music creative inc.

大一商会（北名古屋市沖村、0568・25・0777）は8月23日パチンコ台の新機種「CR T.M. Revolution」を発売した。歌手の西川貴教さんとタイアップした。19曲の人気曲を搭載。10月6日に全国のパチンコホールに導入予定。

©DIESEL Corporation
by the courtesy of Epic Records Japan

ベルコ（大阪市天王寺区）は7月にパチスロ台の新機種「スーパービンゴ ネオ」を発売した。10月20日に全国のパチンコホールに導入予定。製品に関する問い合わせはベルコ販売（06・6779・3477）まで

©BELLCO

業界関連団体TOPに聞く

全国遊技機商業協同組合連合会（全商協）
会長 **中村 昌勇** 氏

適正な流通とリサイクルを目指す

全商協はパチンコ遊技機の製造会社、卸売会社と遊技場の設備関係を取り扱う販売業者（950社）で構成された全国8か所の商業組合の連合体として1989年に設立され、以来「ホールとメーカーをつなぐ架け橋」として業界発展のために貢献してまいりました。

特に連合会の主軸活動となっております中古パチンコ遊技機の流通事業におきましては、適正な流通と不正改造防止に向けたセキュリティの確保、廃棄時の適正なリサイクル処理を基本理念に掲げ、ホール様に安全かつ安心してご利用いただける遊技機を提供していくための取り組みを積極的に展開し、遊技産業のさらなる発展のために貢献してまいります。

回胴式遊技機商業協同組合（回胴遊商）
理事長 **伊豆 正則** 氏

創立20周年の節目に当たって

回胴遊商は、パチスロ流通の新たな秩序と制度の確立を目的として、日電協様のご理解とご指導のもと発足、おかげさまで今年で創立20周年を迎えることができました。

諸先輩方が築かれた、このすばらしい遊技産業を繁栄させるために、回胴遊商の組合員として誇りと責任、自覚をもって、健全で信頼される販売活動を行うことが、業界が失った国民からの信頼を回復するための一番の近道でもあり、回胴遊商ができる最大の業界貢献ではないかと考えています。

また、これからの一日一日を大切にし、業界のすべての皆さまへの感謝の気持ちと初心を忘れず勇気をもって、さらなる進化と強力な組織づくりを目指し挑戦してまいります。

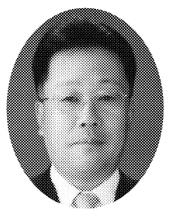
遊技場自動サービス機工業会（自工会）
理事長 **古宮 重雄** 氏

安心・安全な機器の提供に努める

自工会は、1988年2月、玉（メダル）貸機、両替機、カウンター周辺機器などを代表とするパチンコ店舗向けの省力化・近代化機器の製造業者を中心に設立しました。周辺機器の振興、貯玉システムの普及や会員間の特許問題の調整などさまざまな課題解決に向けて活動を展開しています。また、不正防止に関する対策の樹立および推進の理念に基づき、一部製品のセキュリティ検査を実施するなどして安心・安全な機器の提供に努めています。

14年は、特許取扱事業の一層進展と、貯玉システムに新しい付加価値を加えるべく活動し、利便性の高いかつ省力化の図れる機器の提供を通じて業界活性化に貢献させていただく所存です。

遊技場自動補給装置工業組合（補給組合）
理事長 **梁川 誠市** 氏



設備機器に対する要望に応えて

補給組合はパチンコ遊技場における遊技球の自動補給装置の製造、またパチンコ遊技場用のホールコンピューターの製造を営む者を組合員とし、近代的かつ合理的な設備を提供させて頂けるように今日まで努力をして参りました。おかげさまで明年には設立45周年を迎えることとなります。

時代とともに刻々と変化する市場において、今後も設備機器に対するあらゆるご要望にお応えできるよう、製品に対する研究開発を継続し日々精進して参ります。

また業界全体の発展のために身近で手軽な大衆娯楽の普及に向け、一般社会にも貢献できるような体制を整えて、業界の裏方の要としてしっかりと支えていく所存です。

遊技場メダル自動補給装置工業会（メダル工業会）
理事長 **大泉 政治** 氏

静音や低コスト化製品の開発に取り組む

メダル工業会は1990年にメダル補給メーカー11社が中心となって発足しました。当時の遊技産業はホール数、遊技機総設置台数が伸長、パチスロ機の設置台数も約68万となり、ホール側からの省力化や自動補給・回収装置へのニーズが高まっておりました。工業会はパチスロ機のメダル自動補給装置の補給・回収器具及び導通センサー等の製作や販売の普及により、遊技場のコスト削減、不正改造の防止を目的としております。

92年からは保安通信協会（保通協）の付加試験に適合している唯一の器具として業界の健全化に貢献。今後は更なる静音化、小型化および低コスト化等を図ったより良い器具を研究開発して業界の発展のため努力していく所存であります。

日本遊技産業経営者同友会（同友会）
代表理事 **松田 高志** 氏

ホール経営者の視点で環境を整備

同友会はパチンコホール経営者と営業を支援する賛助会員とで構成された団体で、1994年に創立、本年10月に20周年を迎えます。業界が健全に発展していくための施策やホール経営の在り方等について、経営者の視点で協議、研究を行っております。

近年の活動としては、震災直後よりボランティア派遣を毎年行っており、今年は5月から9月まで宮城県南三陸町において、田畑の再生作業やイベントのお手伝いを実施、自主イベントの開催も予定しております。

またオリンピックに向けて、パチンコが世界中の人々に楽しんで遊技いただき、新たな日本の娯楽文化として見てもらえることを目標に環境を整備していきたいと思っております。

余暇環境整備推進協議会（余暇進）
代表理事 **笠井 聰夫** 氏

国際大会に向けて健全化に取り組む

2020年東京オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典に止まらず、大震災復興をアピールする好機でもあります。外国人観光客は2千万人と倍増が見込まれていますが、当然ながら、各地で外国人遊技客を見ることも夢ではなく、パチンコ遊技はますます手軽で安心して楽しめる大衆娯楽であり続けなければなりません。

余暇進ではパチンコ遊技のさらなる健全化のための環境作り、法整備等を目標に業界横断的に有志企業が集まり、政策提言等を行っております。これからも業界の将来を長期展望しながら諸課題に取り組んでまいりますので、よろしくご鶴声賜りますようお願い申し上げます。

パチンコ・チェーンストア協会（PCSA）
代表理事 **金本 朝樹** 氏

チェーンストア理論で環境整備

PCSAは、チェーンストア経営理論に基づき、パチンコを大衆娯楽として産業化し、公明正大に広く社会に貢献することを目的に活動をしてまいります。

そのためには、パチンコホール企業の株式上場、法律の整備が不可欠だと考えており、前者は2012年8月6日、PCSA正会員企業の持ち株会社が香港証券取引所に上場を果たしました。残す法律の整備も、2020年のオリンピックの前に設立しました。以来、警察庁の指導や保安通信協会の協力を得て、この三者の枠組みの下、機器の機能やシステムのセキュリティの高度化等に努め参りました。

業界における透明性の確保は、健全化や発展のためにますます重要性を増すことと思われます。

今後とも、ECOシステムの研究や、パチンコ以外にもCRシステムの普及活動、カードの利便性、汎用性の拡大や、店舗内の安全環境の向上に資するユニット・システムの開発を推進。安全で快適な遊技環境の確保にも努めてまいります。

プリペイドシステム協会（PSA）
理事長 **小堀 豊** 氏

プリペイドによる売上透明化を図る

PSAは遊技場におけるプリペイドシステムを普及させ、売り上げの透明化をサポートするなど、「インのクリア」を図ることを目指して10年データの透明化を確保するための事業として設立された非営利法人です。

認証協ではデータ改ざん防止装置を組み込んだ最先端のセキュリティ技術を持った売上管理システム「i（アイ）クリアシステム」を遊技場に提供しております。

14年度は「変革の年」と捉え、遊技人口の減少や遊技産業に対するイメージ改革、ECO遊技機システムへの早期対応、iクリアシステムを用いた消費増税への対応などに力を入れ、遊技産業の活性化に尽力して参ります。

電子認証システム協議会（認証協）
代表理事 **広瀬 清** 氏

iクリア&ECOシステムで業界の活性化を目指す！

認証協は2003年8月に「Clear Amusement」を合言葉に遊技業界の健全化及びそれに伴う各ホールの売上（貸玉、貸メダル）

遊技産業健全化推進機構
代表理事 **河上 和雄** 氏

不正の根絶を目指して健全化を推進

遊技産業健全化推進機構は2006年遊技業界から一部の業者の不正を根絶する目的で設立され、これまで全国の誓約書提出ホール約1万9000店で立ち入り検査を実施、検査したパチンコ、パチスロ、計数機は合わせて約10万台に上っております。ほぼ全国のホールを2巡した形ですが、不正改造したとみられる遊技機が少なからず確認されております。

また、ほかの遊技機から勝手に部品を取って使っている事案なども確認されており、関係団体を通じ注意を呼びかけ、場合により当局と連絡をとっています。機構の活動が不正行為の発見ばかりではなく、不正防止の抑止力としても機能し、ユーザーにとって公平な環境づくりに貢献していると考えております。

リカバリーサポート・ネットワーク
代表理事 **西村 直之** 氏

パチンコ依存に対するセーフティーネット

私たちは、遊技業界と協働しパチンコ依存問題の電話相談を行う非営利活動を2006年より開始。現在までに約1万3000件の相談に対応しています。

どのような娯楽にも良い面と悪い面があり、パチンコへの過度ののめり込み（依存）や車内放置事故は悪い面の現れです。楽しいものほど度が過ぎてしまいやすいものです。しかし、度が過ぎるほど夢中になれるからこそ大衆に愛され続けていることも事実です。度が過ぎる人が増えれば、社会の目は厳しくなります。遊技者にも地域の人にも優しく、海外の人たちの目にも「良い日本の文化」と映るよう健康でバランスがとれた娯楽となるよう依存問題のセーフティーネットとして活動に取り組んでいます。